

平成29年度 大田区立中萩中小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◎よく考える子	朝学習(読書タイム、漢字タイム、算数タイム)・スピーチ大会・問題解決学習の推進
◎思いやりのある子	言葉遣い・あいさつの重点指導・縦割り班活動・地域ボランティア活動への参加
◎たくましい子	基本的な生活習慣(運動・睡眠・食事・排便等)の確立・体力向上(マラソン週間、マラソン大会、駅伝大会等の活用・長縄集会)
◎主体的に考え、表現できる児童の育成	～理科・生活科を通して～
◎特色ある教育活動:地域との交流	①商店街主催の阿波踊り大会への参加 ②特別養護老人ホームでの福祉体験と高齢者への配食サービス ③図書ボランティアによる読み聞かせ

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 理科・生活科を通して問題解決型学習を進めるなど、校内研究を推進し、児童の思考力・表現力の向上を図るとともに、主体的に取り組む態度を育成する。	4:学校の授業が「よく分かる、だいたいわかる」と回答した児童の割合が昨年度を上回る。(92%以上) 3:学校の授業が「よく分かる、だいたいわかる」と回答した児童の割合が85%以上。 2:学校の授業が「よく分かる、だいたいわかる」と回答した児童の割合が80%以上。 1:学校の授業が「よく分かる、だいたいわかる」と回答した児童の割合が80%未満	4	○主体的に考え、表現できる児童の育成に取り組み、理科・生活科における問題解決学習が定着した。 ○校内研究で明らかになった課題や解決方法については、教科を問わず、応用できる内容を明確にし、日々の授業に生かしていく。 ○授業改善推進プランをもとに、自身の授業改善ポイントを示して授業を公開していく。 ○補習の効果について検証していく。	
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 児童は丁寧な言葉遣いができ、進んで挨拶ができる。	4:学校の「きまりを守る」と回答した児童の割合が昨年度を上回る。(92%以上) 3:学校の「きまりを守る」と回答した児童の割合が80%以上 2:学校の「きまりを守る」と回答した児童の割合が70%以上 1:学校の「きまりを守る」と回答した児童の割合が70%未満	3	○「きまりを守る」と回答した児童は89%。昨年度の91%からやや後退。校内で指導の重点を明確にして改善を図る。 ○SCとの連携はよくとれているが、改善が進まないケースも複数ある。発達支援アドバイザーや巡回心理士などの連携も視野に入れ、具体的な改善策を検討する。 ○生活アンケートの実施などから児童の実態を随時把握できるようにし、早期発見に努める。SNS関係についてもいじめに関わるので、携帯の所持率や使用状況についても情報を共有できるようにする。 ○「こころの東京ルール」を参考に、家庭への啓発を進める。	
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 体力向上モデル校として、マラソン週間、マラソン大会、駅伝大会、長縄記録会、オリンピック・パラリンピック教育などを活用し、体力向上や外遊びを推進する。	4:進んで身体を動かしている児童の割合が90%以上 3:進んで身体を動かしている児童の割合が80%以上 2:進んで身体を動かしている児童の割合が70%以上 1:進んで身体を動かしている児童の割合が70%未満	3	○体力テストの結果をファイリングするなど、児童が自身の成長を確認できるようにする。結果を家庭に戻すときにも意欲付を行う。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」については、カードの活用を工夫し、データの集計も行って具体的な数値を得ることができた。データを活用し、今後も啓発を続けていく。 ○マラソンやなわとびへの取り組みは向上している。「進んで身体を動かしている」と回答した児童は87%。	
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 OJTを推進して授業改善に努め、ねらいと評価の明確な授業作りに努めている。	4:「学校は、わかりやすい授業づくりに努めている」と回答した保護者の割合が昨年度を上回る。(92%以上) 3:「学校は、わかりやすい授業づくりに努めている」と回答した保護者の割合が80%以上 2:「学校は、わかりやすい授業づくりに努めている」と回答した保護者の割合が70%以上 1:「学校は、わかりやすい授業づくりに努めている」と回答した保護者の割合が70%未満	4	○個々の教員の実態に応じて、管理職、主幹教諭、主任教諭が授業の研修を行う。 ○ICT機器の導入により、活用が進んでいる。講習会等への参加により、さらに効果的な活用ができるようにしていく。 ○サポートルームにおいても、タブレットの活用が進むよう、研修と共に効果的な教材の導入を進める。	
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 保護者と連携し、学年×10分の家庭学習を推進する。	4:家庭学習の習慣ができている児童の割合が90%以上 3:家庭学習の習慣ができている児童の割合が80%以上 2:家庭学習の習慣ができている児童の割合が70%以上 1:家庭学習の習慣ができている児童の割合が70%未満	3	○家庭学習ができているという児童の回答は8割をわずかに切っている状況が続いていたが、今年度は82%に上昇。引き続き学年で連携した取り組みと家庭学習への理解を進める。 ○地域教育連絡協議会においては、学力調査結果や体力調査結果などの情報を提供し、児童の実態や学校の対応について情報共有している。 ○学校支援地域本部の活動は年々充実している。	○特色ある教育活動、地域との交流を行っていきけるよう平成30年度も努力していきたいと思っております。